

Title	「ナイツ・オブ・レーバー」の構成と其勢力の消長
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1931
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.25, No.3 (1931. 3) ,p.305(1)- 363(59)
JaLC DOI	10.14991/001.19310301-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19310301-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19310301-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

號 月 三

# 論評田三

口繪 故堀江歸一博士胸像

強き個人と強き團體

滿洲問題の現状

聽耳草紙

塾報、雜報

各地三田會其他

林 毅 陸

米 田 實

佐々木 喜善

定價 金 參 拾 錢  
一年分 金 參 圓 四 拾 四 錢  
振替貯金東京一八三〇四番

塾 義 應 慶 田 三・芝・京 東 所 行 發

## 三田學會雜誌 第二十五卷 第三號

### 『ナイツ・オブ・レーバー』の構成と 其勢力の消長

園 乾 治

#### 目 次

- 一、『ナイツ・オブ・レーバー』と諸労働組合
  - 二、『ナイツ・オブ・レーバー』に加盟せる労働組合(一)
  - 三、『ナイツ・オブ・レーバー』に加盟せる労働組合(二)
  - 四、『諸業組合及労働組合聯合』
  - 五、『國際葉卷煙草製造工組合』
  - 六、『アメリカ労働聯合』の起原
- 以 上

第二十五卷 (三〇五) 『ナイツ・オブ・レーバー』の構成と其勢力の消長

第三號

一

## 一、『ナイツ・オブ・レーバー』と諸労働組合

『ナイツ・オブ・レーバー』の成立せる事情、アメリカ労働階級が政治運動に其の主力を傾注せること、而して其後に至つて純然たる労働組合運動に復歸せることに就ては既に論述した。拙稿「アメリカ労働階級の政治運動と社會主義思想」(本誌第二十四卷第九號所載)及び「一八七八年以降に於けるアメリカの新労働組合運動」(本誌第二十四卷第十號所載)がそれである。本稿に於ては是等の論述の後を承けて『ナイツ・オブ・レーバー』の其後の活動を叙するのであるが、之を構成する労働組合及び之を構成せざる労働組合の關係の分析を試み乍ら其目的を果すであらう。

初期の『ナイツ・オブ・レーバー』の地方協議會は同業労働組合と多く異なるところが無い。秘密主義を守り特殊の儀式を行ふ點に於ても程度の差のみであつて、前者が之を極端に實行したといふだけである。『ナイツ・オブ・レーバー』の他と區別せられる特徴の一は、連帶主義、乃ちあらゆる職業を單一の旗幟の下に招來することである。ユリア・ア・エス・ステイブンス (Uriah S. Stephens) の如きも一八六一年に於て男も女も、一切の職業、宗教、人種を包括する組合が世界を蓋ふに至るべき

ことを主張したと言はれてゐる。尤も此連帶主義は偉大なる思想であるが、之は畢竟するに一個の思想に過ぎずして何等實行手段を示さなかつた。ステイブンスの後を繼いだテレンス・ブイ・パウダーリー (Terence V. Powderly) は前者程豫言者的ではなかつたが、彼の時代に於ては一八七〇年代の不況によつて六〇年代よりも労働組合の無氣力が一層甚しくなつて、到底理想を實現することは出来なかつた。

『ナイツ・オブ・レーバー』の地方組合は純然たる同業労働組合として終始した。而して被服工の地方組合の如きは、始め他の職業の者をも加入せしめ、次で之を別個の協議會たらしめて、同業者の團結を維持すると共に労働階級の連帶をも促進したのである。反之地方協議會は當該地域に於ける各種の地方組合の代表者より構成せられたる混成團體であつた。之は『全國労働組合』(National Labor Union) 及び『産業議會』(Industrial Congress) の經驗から得たる思想に基いた。『全國労働組合』と『産業議會』とに就ては拙稿「全國労働組合と政治經濟問題」(本誌第二十三卷第七號所載)「全國労働組合の崩壊と一八七三年の恐慌」(本誌第二十三卷第十號所載)「ナ

イツ・オブ・レーバー成立前の労働情勢(本誌第二十四卷第一號所載に詳細に述べた)而して混成地方組合は一八七八年に於ける總協議會の成立後に優勢となり、混成協議會は同一職業の労働者の数が地方同業組合を組織するに十分ならざる半農村地方に於て急速に發展した。併し乍ら労働者の多數存在する地方に於ては地方同業労働組合が斷然優勢であり、混成地方組合は到底之に比肩すべくも無い。然るに時代の進むと共に混成地方労働組合の割合が漸次増加したが、これは「ナイツ・オブ・レーバー」の從來の加盟組合の變動に因るにあらず、不熟練労働者の急激に膨脹せるに因るにあらず、農業を主とする西部地方及び南部地方に於て「ナイツ・オブ・レーバー」が擴張せられたる結果であつた。

斯くの如くして地方協議會内部にありては地方同業労働組合が、一八八六年前後には優勢であつたが、總協議會に屬する各地の地方組合を考察する時は、「ナイツ・オブ・レーバー」は明瞭に混成的であると言はねばならぬ。總協議會は地方協議會并に地方組合の代表者より構成せられるが、實權は前者の掌中に存し、而してそれは多くの場合に混成組合と各種の地方同業組合より構成せられるものなるが

故に、混成的見解の優勢であることが期待せられる。電信工、ガラス職工、坑夫、製靴工の組合は全國に亘るものであるが、斯く全國に擴からざるものも多數であつた。而して總協議會は相當の程度に於て最大の地方同業労働組合によつて支配せられたが、大規模の混成地方組合の感化は職業以外に關するもので、それは地方の指導者の特性によつて相異した。

初期に於て「ナイツ・オブ・レーバー」は明に同業労働組合を以て構成せられたにも拘らず、ステイ・イン・フランスに次ぐ指導者は一般に労働組合に對して同情を有しなかつた。彼等は「ナイツ・オブ・レーバー」が個々の同業労働組合に取つて代るべきことを確信し、且つ同業労働組合が排他的にして偏狹なる爲めに、労働運動を衰頽せしめ、結合を生ぜしめずして分散せしめ、漸次盛んに赴きつつある産業上の聯合に對抗する上に不適當ならしめると確信してゐる。併し乍ら同業労働組合が「ナイツ・オブ・レーバー」内に存立し、同時に些も自治權を喪失しないであることは不可能のことに屬する。而して「ナイツ・オブ・レーバー」と労働組合との衝突は、一八八六年に危機に臨んだのであるが、抑へ難きものではなかつた。それは構造の不同



又は見解の相異にのみ原因するにあらずして、個人的自負及び野心、政治的術策及び事變と多くの關係を有した。併し乍ら最大の原因は、一八八六年「ナイツ・オブ・レーバ」が其形狀及び勢力に於て、僱主及び公衆のみならず労働組合自身にとりても極めて物騒なるものとなつたことにある。

労働組合に對する「ナイツ・オブ・レーバ」の態度に關する誤解の一部分は、ストライキの問題に對する紛糾に原因する。「ナイツ・オブ・レーバ」の初期の指導者は斷乎としてストライキに反對した。これに就ては一八七〇年代の總ての組合指導者が同様であり、協商と調停を以て之に代へやうと試みたのであつた。併し之に對しては古い指導者は決して満足しなかつた。又「ナイツ・オブ・レーバ」は職業上の事項よりも協同組合と政治とに一層多くの興味を有すると屢々推定せられるが、これは事實ではない。勿論アメリカの労働運動は何れも協同組合と政治とに興味を有し、而して「ナイツ・オブ・レーバ」は「全國労働組合」「産業議會」「八時間聯盟」「セント・クリスピンス」の後繼者として斯かる傳統を有したが、労働組合の傳統をも維持し、却つて前者に對しては多くの注意を拂はなかつたのである。

構成上より見れば「ナイツ・オブ・レーバ」は殆んどあらゆる形態を包有し、此點に於ては「アメリカ労働聯合會」(American Federation of Labor)と何等異るところが無い。「ナイツ・オブ・レーバ」の混成地方組合は「アメリカ労働聯合會」の聯合組合と同一物であり、混成地方協議會及び州内協議會は諸業協議會又は市内本部及び州内聯合會に相當し、全國同業會議は全國同業組合に、又總協議會は年次大會に該當するものであつた。唯相異なるのは權能の中心であつて、「ナイツ・オブ・レーバ」に於ては地方協議會、「アメリカ労働聯合會」に於ては全國組合が勢力の均衡を維持したのであつた。純理上總協議會が至上であつたが、實際に於ては地方組合は行動の自由を享有し、結局「ナイツ・オブ・レーバ」と「アメリカ労働聯合會」との眞の相異は、前者が何れかの方法を以て一切の労働者を團結せしめんと試みたるに對し、後者は過大の野望ありと見られる此計畫を非難したのであつた。

「ナイツ・オブ・レーバ」と同業労働組合との間の不和に關して「葉卷煙草製造工組合」の地位に對して餘り多くの注意が向けられた。それは恐らくサムエル・ゴンバースが之に關與してゐたからであらうが、彼が葉卷煙草製造工であつたのは偶

然であり、其組合が代表すると想像せられたる新労働組合運動は、新規の攻撃的指導を意味するに過ぎぬものであつた。ストレッサーの下に於ける『葉巻煙草製造工組合』は多数の突發的ストライキを統制せんと試み、一八八二年には進歩主義者の名目を以て急進派が分離し、之を支持するニュー・ヨークの有力なる地方協議議會が『ナイツ・オブ・レーパー』を闘争の渦中に卷込んだ。然るに其後間もなくサムエル・ゴンバースが現はれ、新労働組合運動の建設者、代表者、操縦者として活躍した。而して此運動に關する根本思想はビー・ゼー・マクグワイアー (P. J. McGuire) より發したものであつた。彼はゴンバースよりも指導者たる資格に於て缺くところがあつたが、彼よりも多くの學識を有し、時代を洞察する明を有した。彼は急進主義より共濟組合的労働組合に轉じ、從來の無氣力なる『大工指物師合同組合』を此種類の労働組合に改造した。葉巻煙草製造工の組合は此組合と事情を異にし、同一の政策を執ることが出来なかつた。それ故に彼は再び轉じてイギリスの『労働組合會議』に依ることとなつた。

『ナイツ・オブ・レーパー』には其起原が二つある。一は一八六九年の地方労働組合としてであり、他の一つは一八七八年の全國組合としてである。同業労働組合は一八六九年に最も盛大に赴き政治運動に進出したが、一八七〇年代の長期の不況の後、一八七八年には殆んど存續するものが無くなつた。此時代に於て『ナイツ・オブ・レーパー』が成功を収めたるは其秘密主義に原因する。然るに此秘密主義は教會及び新聞等より好ましからざる注意を受け、同時に一八八〇年以來労働組合運動が復活することとなつた。一八五〇年及び六〇年時代に於ける全國組合は單に名目上のみ全國的のものであり、七〇年代の不況に因りて極く少數のものを殘すに過ぎなかつた。然るに其後漸次復活の曙光を見出した。併し乍ら所謂新労働組合運動は將來に於ては協同組合の礎石となり、又政治的活動をもなすに至るであらうが、其當初に於てはそれぞれの職業別に組合を組織し迅速に職業上の問題に就き活動することを専念するのであつた。而して永續的全國組合は共濟的職分を基礎とし、ストライキ基金を設け、政治上の野心は棄つべきであつた。これは南北戦争當時其生命を維持したる活版工組合の經驗せるところであり、ニュー・イングランドに於けるイギリスの移民も同様の方針を執つた。一八六一年『ア

アメリカ坑夫組合』(American Miners' Association)が組織せられ、石切職工の組合もイギリスの例に倣ひ、葉巻煙草製造工の組合も同じくイギリスの組合を模範として組織を改革した。併し乍らアメリカの新しき組合運動はイギリスの古き組合運動と異なるところがあつた。それは一層攻撃的であり、保険の目的に組合費を徴収する場合にはストライキの爲にも之を徴収したる點にある。

『ナイツ・オブ・レーバー』の労働組合に對する態度は、一言にして盡せば日和見的であつた。初め協力を希望したにも拘らず後に之に對して反感を懐くに至つた。労働組合の『ナイツ・オブ・レーバー』に對する態度は比較的温和であり、特にゴンバースの出現に依りて其傾向を著しくした。古き指導者バウダーリーとゴンバースとは到底相互に理解することが出来なかつた。前者はアイルランド出身にして數年間工業都市の市長を勤め、權能大なる地位に慣れたる中産階級の者であり、後者はユダヤ人にして工場労働者より身を起し、政治俱樂部にも關係せる者であつた。此新しき指導者は階級意識を賃銀意識にまで弱めた。何れにしても是はバウダーリーの有せざるところであつた。

初期の『ナイツ・オブ・レーバー』の労働組合に對する態度はステューブンスの八七九年一月第二回の定期總會に對する演説の中に見出すことが出来る。それに依れば彼は合同の利益を進め、孤立的活動の効果少なくして弊害多きことを主張し、總べての労働團體を統一して一大合同體たらしめんことを提案した。而して此提案は總會の承認するところとなり、彼は其要旨を公刊する權能を與へられ、又労働組合の總會をも開き得る權能を與へられた。此事は『ナイツ・オブ・レーバー』が労働組合を總て吸収することを意味するものではなかつた。然るに之に對する反對は有力では無かつたが、全く缺如した譯ではなかつた。殊にそれは西部地方より起り、組合加入證の發行に就て制限を加へんとする要求の行はれたこともある。

ステューブンスは一八七九年九月シカゴに於ける第三回總會に出席しなかつたが、彼の陳情書は朗讀せられ、一切の生産的労働部門の合同を第一の義務なりと主張した。併し此時には西部地方の反對派が勢力を占め、總協議會は完全に反對意見に轉換した。斯の如くしてシカゴの大會は労働組合をして『ナイツ・オブ・レー

「バー」を完全に見棄てしむるに至つた。それと同時に是はバッダリー時代の出現を形成したものであつた。翌一八八〇年ピッツバーグに於ける大會は労働組合派の勢力を恢復せしめ、全国的並に國際的労働組合を支配すべき法令を要求せしむるに至つた。尤も此提案は否決せられ、反對の決議も亦同様に否決せられたのであつた。

『諸業組合及労働組合聯合』(Federation of Organized Trades and Labor Unions)は一八八一年八月準備會議を開催したる後十一月永久的に成立した。此間に開催せられたる總協議會は「ナイツ・オブ・レーバー」が一層大なる労働運動に依りて吸収せらるべきものと思はれた。然るに此新しき團體の會則は、ゴンバースの希望に反して「ナイツ・オブ・レーバー」に代表の派遣を許した。然るに一八八二年ニューヨークの總協議會に於て「ナイツ・オブ・レーバー」に労働組合主義が復活すると共に「合同鐵鋼労働者組合」のストライキを支持する決議を通過せしめた。總協議會は一八八二年労働組合に對する本來の態度に立歸り、其組織を承認するのみならず之を奨励した。それは禁止政策にも拘らず鞏固なる全國同業労働組合が設立せら

れたること及び新しき聯合體に對する反感等に原因するのであつた。

斯の如くしてニューヨークの總協議會は「ナイツ・オブ・レーバー」内部に地方同業労働組合を組織する二種の方法を採用した。何れの産業部門に於ても地方同業労働組合を組織せんとする場合に、執行委員會は斯の如き團體組織の目的を以て代表者會議を召集することが第一の方法であり、同一職業の地方組合の多數はそれぞれ三名の代表者を選び、同業會議を組織し、當該職業に關する總ての問題を附議することとした。

一八八三年より八五年に亘る不況及び一八八三年の電信工爭議の失敗は、此方面の労働組合の發展を阻害した。此外孤立せる組合は各種の職業に互りて失敗を重ね、唯ニューヨークの建築業労働者のみが成功を収めたるに過ぎなかつた。而して一八八三年シンシナティに於ける總會議は何等重要なる變化を示さなかつたが、總執行委員會の全國同業會議の組織を勸告し、同業協議會組織に反對する地方同業組合の抗議は不成立に終つた。斯の如くして勢力大ならざる多數の同業労働組合は破壊せられ、其組合員は「ナイツ・オブ・レーバー」に流入するに至つた。



併し乍ら「ナイツ・オブ・レーバード」も同業労働組合と無関係ならざる問題に依つて自ら窮境に陥つた。例へばホックキング溪谷に於ける坑夫のストライキが宣告せられたる時、彼等を支持する準備の有無に依らざるを得なかつた。多くの場合に於て「ナイツ・オブ・レーバー」の加入者は不本意乍ら労働組合の命令に服従することを強制せられたのである。

斯の如き労働組合関係の問題は、之を「ナイツ・オブ・レーバー」内部の反職業的感情の勃興に比較すれば、尙輕きものであつた。ニューヨークの一地方協議會は役員の状態を攻撃し、一八八三年ニューヨークの印刷工組合、葉巻煙草製造工組合等に對する總執行委員會の責任を問ふ文書を提出した。此組合は又總協議會に對する地方同業労働組合の代表者の資格に就ても抗議したことがある。斯の如き攻撃にも拘らず一八八四年は全國的同業労働組合の必要を最も痛切に感じた時代であり、其理想を實現したるものはガラス工及び電信工の二つに過ぎなかつた。而して委員會は組合員より一人五セント宛の賦課金を徴收し、莫大の金額をホックキング溪谷の坑夫に送附した。

「ナイツ・オブ・レーバー」は各種の職業を包括する準備をなしたが、其精神及び主旨に於て全國諸業労働組合と根本的相違の存在することを宣言するに躊躇しなかつた。此相違は「ナイツ・オブ・レーバー」が現在の産業制度に急激なる變動を加へんとするに反し、全國諸業労働組合は現在の制度を承認し、自らこれに順應せんと努力せしめるのである。これは「ナイツ・オブ・レーバー」に於ける新しき特徴ではないが、新しき傾向と言ふべきであつた。「ナイツ・オブ・レーバー」は常に賃銀制度に反對する點に於て急進的であり、此傾向は一八八三年より八四年に至る間に於て特に顯著であつた。

然るに一八八四年以後政策に轉換を來し、守勢より攻撃に移つた。而して其一同業労働組合に反對するホーム・クラブ(Home Club)に依りて指導せられ、他の一つはベイリー、ブカナン等に依りて指導せられたる資本の結合に對する反對の形態を採つた。前者は「國際葉巻煙草製造工組合」を破壊して「アメリカ労働聯合」を組織した。而して鐵道業及び屠畜業に於てはストライキが一時成功したが、其後の事件は賃銀制度が容易に徹廢せられざることを示し、組合運動の方向轉換を

生ぜしめるに至つた。會則に於ては一八八〇年及び一八八一年の兩年を除き、常に全國同業協議會の組織は自由であつたが、實際に於ては必ずしも然らず、總執行委員會より許可を得ることを必要として制限が加へられたが、一八八五年以後は産業状態に由來して地方同業労働組合の組織が盛となつた。從來労働組合運動者に寄せたる同情は新しき組合組織の勧誘となり、舊き組合の「ナイツ・オブ・レーバー」に對する参加を勧誘することとなり、これと同時にニューヨークの「國際葉卷煙草製造工組合」と抗争することとなつた。「國際葉卷煙草製造工組合」は社會主義者のゴンバースの政治政策に對する反對より起り、ストレッサーはこれに反對して改良主義を主唱したのである。然るに社會主義者は自派の者を選擧して地方組合の會長となし、ストレッサーの拒絶に遭ひ、國際組合の執行委員が事情を調査し、解決案を提出したが、ストレッサー及び社會主義者兩派の承認を得ること能はずして、禍根を残すこととなつた。而して一八八六年十月のリップチモンドに於ける總協議會に於て葉卷煙草工の組合は「ナイツ・オブ・レーバー」より脱退することとなつた。

此リップチモンドの總協議會は「アメリカ労働聯合」の成立に先立つこと二ヶ月であつたが、何等重要なる會則の修正をなさずして終つた。それにも拘らず一時急激に組合の参加を増加し、殆んど一切の職業に於て地方同業労働組合の設立を試みたが、組合當局者は此運動に就て非常に熱心でなかつた。それ故に全國同業組合の組織の成功せるものは、極めて尠く、「ナイツ・オブ・レーバー」から早晚脱退して「アメリカ労働聯合」に加盟せる獨立の労働組合として存続するか、若しくは解消して終ふものが多かつた。(Ware, Labor Movement in the United States, pp. 155-190; Perlman, History of Trade Unionism in the United States, pp. 113-114) (尙ほ「ナイツ・オブ・レーバー」の構成形態に就ては前掲 Perlman p. 114 又は Carlton, History and Problems of Organized Labor pp. 73-74 に簡單明確に論述せられてゐる。)

## 二、「ナイツ・オブ・レーバー」に加盟せる労働組合(一)

「ナイツ・オブ・レーバー」の内部に於ける労働組合運動の最良の實例は、窓ガラス工の組合に之を見る。此組合は殆んど二十年間純然たる職業上の團體として「ナイツ・オブ・レーバー」に加盟した。此組合は小規模にして組合員が一千七百名以上

に達したることは無かつたが、合衆國に於ける總ての工場を支配したるのみならず、其勢力は遠くヨーロッパにも及んだ。彼等は一週四十箱の製産を標準とし、一日九時間一週五日の労働をなし、夏季二ヶ月の休暇を取ることが出来た。當時の彼等は機械の影響を受けず、學識ある指導者の下に於て能く其標準を維持したる事は、他の職業に見ざるどころであつた。彼等は高度の熟練工で、完全なる労働の獨占を實現し、ヨーロッパのガラス職工の移住に依りて脅かされたる時、組合の會長はヨーロッパに赴きて組合を組織したのである。

一八七七年「ナイツ・オブ・レーバー」の第八地方協議會が組織せられ、多くの地方組合が之に参加した。此組合は總協議會の創設せらるゝに先立ちて組織せられたる最初の地方同業労働組合であつた。然るに此組合は間もなく全國的組織を完成し、一八八〇年の總協議會に於て其承認が議せられることとなつた。然るに彼等の要求は既に「ナイツ・オブ・レーバー」が協議會を有する都市に於て支部を組織し、其組合員は協議會に参加せざることとなるが故に、總協議會にとりては從來の法令を一切廢止せざるを得ない問題であつた。而してこれが解決としては、四十

名以上のガラス職工の在る地方に於ては彼等の協議會を開放し、他の職業の者をも参加せしむる提案があつた。これに對してガラス職工は同業中央集權が絶対に必要なること、併し乍ら組合は出来るだけ「ナイツ・オブ・レーバー」の規則に一致すべきことを報告した。而して是等の會則の下に於て此ピッツバーグの組合は組合員及びストライキ基金に關する年四回の報告をなし、人頭賦課金を支拂ふことを要求せられ、組合員は普通の方法に依りて推舉せられたのであつた。併し乍ら此外のガラス工は、斯の如く幸運ではなかつた。

此地方協議會と「ナイツ・オブ・レーバー」との間の協定は、兩種の團體間に於て何等解決し難き不和の存せざることを示すものである。併し偶然の事情に依りて此結果を得たのであり、全然反抗が存在しなかつたのではない。ピッツバーグ市の外の窓ガラス職工は近隣の地方協議會の組合員として止る様に規則を改正すべしといふ要求も企てられた。

窓ガラス職工の賃銀はピッツバーグに於て東部地方に於けるよりも二十パーセント高く、從つて東部地方に於て十パーセントの値上をなさんが爲めにストラ

イギが宣告せられた。而して窓ガラス製造工組合の職工二十一名が騷擾法に依りて捕縛せられ、ベルギーの職工が輸送せられたが、彼等は前記の組合の爲めに捕縛せられた。而してガラス製造業者は輸入ガラスに對して關税を引上げること、を議會に要求し、労働組合はガラス職工の輸送に反對して保護を求めた。これが爲め一八八四年議會に多數の署名を有する請願書が提出せられ、保護法案は下院を通過することを得たが、上院には遂に送達せられるに至らなかつた。これより先き一八八三年夏ガラス職工がストライキを企てたるに『ナイッ・オブ・レーバー』が彼等を支持し、五個月を経過したる後、満足なる協定を遂げて労働側の成功を以て終結した。其後板ガラス職工の組合は此例に倣ひ一八八五年全國同業組合を組織することが出来た。窓ガラス職工の成功は他のガラス職工若しくは『ナイッ・オブ・レーバー』の損失を生ぜしめること無く、一八八五年にはプリントガラス工、瓶製造工等をして『ナイッ・オブ・レーバー』に加入するの決心をなさしめたと言はれる。(Ware, pp. 191-200; Commons, p. 425)

『ナイッ・オブ・レーバー』に於ける製靴工の重要性は決して無視することが出来

ない。これは最も大なる單一の職業團體であり、『ナイッ・オブ・レーバー』の最も重要な指導者四人は此間より生じたのである。ラルフ・ビュームント(Ralph Beaumont)チャールズ・リッチマン(Charles Litchman)リチャード・グリフィス(Richard Griffith)ジェームズ・ビーライト(James P. Wright)がそれである。製靴工の組合たる『ナイッ・オブ・セント・クリスピン』(Knights of St. Crispin)は一八六八年より一八七〇年に至るまでアメリカに於ける最も大規模の且つ最も有力なる組合で、一時ストライキが成功したのであるが、間もなく備主の組合組織に依りて失敗に遭つた。其後一八七五年『クリスピン』の復活が企てられたが、一八七八年に於ける失敗に依りて製靴工は組合を有せざることとなつた。然かも此年の『ナイッ・オブ・レーバー』の第一回總協議會に於ける代表者三十三名中の四名は製靴工であり、彼等は攻撃的ストライキ政策の失敗に鑑みて、仲裁制度を推奨し、又協同組合を試み、政治的活動にも走つたのであつた。

『ナイッ・オブ・レーバー』の思想は此經驗によく合致し、新しき團體はストライキに反對し、仲裁に好意を寄せ、協同組合と政治運動とに興味を有し、就中、孤立的労働



組合に對して勞働階級の連帶を擁護した。而して一八七三年フィラデルフィアに支部が設立せられたる以來、各地に支部の設立せられるもの相次いで起つた。斯かる全國同業組合の運動は、一部分は第一地方協議會と一般役員とがペンシルベニア州アレクサンダーに於ける製靴工の保護に失敗したことに原因した。それは一八八三年一月貸銀率表が同地の五工場に提出せられたる時、三工場に於て拒否せられ、總執行委員會は第一地方協議會より助力を求められたが、之を拒絶した。其處で第一地方協議會はあらゆる手段を竭したる一方、總執行委員會はストライキ破壊者を改心せしむる爲めに、シンシナティから善良なる勞働者を輸送した。之は一般役員の微力なるよき證左であり、彼等は自ら調停者を以て任じてゐた。併し乍ら製靴工は復職することを拒絶し、第一地方協議會は遂に手を引くこととなつた。

一八八四年六月フィラデルフィアの十三個の製靴工地方組合が、第一地方協議會を脱退し同業地方組合を組織し、翌年一月此地の製造業者と「ナイツ・オブ・レーパー」との間に合同和解局を設立し、勞働爭議を取り扱ふべく協約が成立した。併し

此機關は一八八六年破壊せられた。これより前、一八八四年九月「ナイツ・オブ・レーパー」に加入せる五個の地方協議會が、全國的同業地方組合を組織するため、大會を召集する決意をなし、翌年六月フィラデルフィアに於てこれを成就し、執行委員會が成立した。又一八八五年六月にはマサチューセツ州ハーバーヒルに於て鞣皮工場にストライキが行はれ、勞働者に有利に解決せられた。斯の如く各地に於て勞働組合の組織が見出され、殆んど地方組合を有せざる處無きに至つた。

『ナイツ・オブ・レーパー』に加盟せざる産業の唯一の重要なる勞働組合は、ニューヨークランドに於て一八六九年組織せられたる靴型製造工の組合であつた。此組合に對して『ナイツ・オブ・レーパー』は數年間能く協同の活動をなし、靴型製造工のストライキに於ては『ナイツ・オブ・レーパー』の助力に依りて個人主義者を結合する事が出來た。然るに斯の如き一致は永續せず、一八八六年マサチューセツ州ウースターの製造業者が組合運動を壓迫するに及んでストライキが勃發したる時、これに對する地方協議會と總執行委員會の態度には相違が現はれた。而して此爭議の結果多數の製靴業の支部は『ナイツ・オブ・レーパー』より脱退し、諸業勞

働組合を組織するに至つた。

何れにしても一八八七年に於ける二重の労働組合運動が紛糾を生ぜしめたる事は明であつた。「アメリカ労働聯合」と「ナイツ・オブ・レーバー」とは互に抗争し、倍々窮境に陥る事となつた。然かも其後に於て「ナイツ・オブ・レーバー」と組合との間の紛糾は倍々盛んとなつた。勿論組合と「ナイツ・オブ・レーバー」とが依然として協同動作を續けたる所もある。ブロックトンのダグラスの工場に其一例を見た。併し乍ら靴及び鞣皮職工の執行委員長會は「ナイツ・オブ・レーバー」より脱退し、機械によつて特化せられたる部門に従つて分裂することとなつた。(Ware, pp. 200-209; Perlman, pp. 115-116.)

「ナイツ・オブ・レーバー」は早くより坑夫の間にも組織せられ、此團體は他の何れの團體よりも長く此團體の中に止つたのである。而して「アメリカ労働聯合」と坑夫及び醸造者組合の二個の産業別労働組合が「ナイツ・オブ・レーバー」の間に發生し其關係を永續せしめた。而して斯くならしめたる原因は、孤立的組合が「ナイツ・オブ・レーバー」と協力し、結局「アメリカ合同鑛山労働者組合」(United Mine Workers of America)を組織するに至つたことである。多くの坑夫組合は其加入者並に組織の範圍に就て種々の經驗を有した。一八六一年イリノイ州及びミズリー州に「アメリカ坑夫組合」(American Miners' Association)が組織せられ、又一八六八年にはペンシルベニア州の無煙炭鑛區には「坑夫鑛山労働者慈善組合」が組織せられ、又一八六三年にはオハイオ州に全國坑夫組合が組織せられ、仲裁制度と協同組合運動に興味を有し、ストライキに反對の態度を取つた。而して一八七四年及び七五年に於ける長期のストライキに依りて労働組合が破壊せられ、存續するものは只「ナイツ・オブ・レーバー」のみとなり、其後坑夫は盛んに之に加入する事となつた。

坑夫組合の復活は一八七九年以後行はれ、不況時代に於ける賃銀値下の恢復を計るためにストライキが企てられ、各地に於て同様の現象を見た。而して一八八五年「全國坑夫及び鑛山労働者聯合」(National Federation of Miners and mine labourers)と稱する全國組合がインディアナポリスに組織せられた。而して此時以來坑夫の全國組合と「ナイツ・オブ・レーバー」との間の争が増大したのであつた。獨立の組合を組織するために活動せるクリストファー・エバンス(Christopher Evans)は地方組

合は聯合會と抗争するために組織せられたる事を主張した。而して一八八五年全國聯合が組織せられたる時、炭坑地方に於ては數百の坑夫協議會が存在し、「ナイツ・オブ・レーバー」を坑夫の全國的の代表者と看做し、同年のハミルトンに於ける總協議會に於ける結果「ナイツ・オブ・レーバー」の坑夫は、全國同業協議會を組織する許諾を得た。

斯の如くして炭坑夫は一八八六年に至り二個の全國團體を有するに至つたのであるが、其何れが有力なるやは容易に判断が出来無かつた。而して全國聯合と全國の地方同業労働組合の關係は間もなく不和となり、激烈なる反目が現はれた。全國の地方同業労働組合のシンシナティに於ける大會に於て會長ウィリアム・エッチ・ベイリー (William. H. Bailey) が其職を去り、ウィリアム・テイ・Lewis (William T. Lewis) が其職を襲いだ。Lewisは彼の組合の組織を聯合體に變改せんと試みた。而して彼の計畫は實現せられ、新しき組合は「アメリカ労働聯合」に加入した。併し乍ら全國労働組合は依然として存續し、一八八九年二月の合同大會は坑夫組合間に於ける紛糾の絶えざるため、何等定まりたる事業を爲さずして解消する事

となつた。而して進歩的組合は「ナイツ・オブ・レーバー」に参加し、一八九〇年コロンブスに於ける大會に代表者を送る事を勧告した。此コロンブスに於ける大會には四つの提案が採擇せられ、「アメリカ合同炭坑労働者組合」(United Mine Workers of America)の名の下に新しき組合が組織せられ、然かも此組合は「アメリカ労働聯合」及び「ナイツ・オブ・レーバー」に参加したのである。斯の如くして五個年に亘る二重の労働組合運動は遂に解決せらるに至つた。

而して一八九一年の此組合の第一回大會は合同の成功に刺戟せられて、母體たる競争團體を其支配の下に置かむとした。次の大會に於てはジョン・ダブルユール (John W. Rae) が會長を辭し、ジョン・マクブライド (John McBride) がその後を襲つた。而して彼の下に於て此組合は倍々獨立性を増し、「ナイツ・オブ・レーバー」の組織たる事が益々減少した。又バウダーリーは全國同業組合に「ナイツ・オブ・レーバー」から脱退することを要求し、之に關して修正意見も現はれたが、翌年彼は其の非なることを謝し、許諾を得たが「合同炭坑労働者組合」の「ナイツ・オブ・レーバー」に参加せるものは姿を消すに至つた。此「合同炭坑労働者組合」は一八九四年の

ストライキに於て實質上解散して了つた。そのストライキは石炭貯藏額を減少し賃銀を維持することを目的としたが、當初に於て組合員は殆んど二倍に増加し、其後更に急激なる増加を見、殆んど全國の一切の鑛山社會を包括することとなつた。(Ware, pp. 209-221; Commons, pp. 425-427)

### 三、「ナイツ・オブ・レーバー」に加盟せる労働組合(二)

「アメリカ労働聯合」中に在り久しく關係を有せる「ナイツ・オブ・レーバー」から轉化せる第二の産業別組合は、醸造労働者の組合である。彼等は初め地方の共済組合として組織せられたのであるが、シンシナティに於ては十三時間労働に對して十一時間半に減し、一ヶ月六十ドルの最低賃銀を設け、日常の労働を四時間に半減すべき事を主張した。醸造労働者の多數は、ドイツ人にして、ヨーロッパに於ける條件に従つて作業した。而して前述のストライキは失敗に終つた。之と同様の計畫が他方の一、二の地方にも行はれたが、間もなくストライキは失敗に終り、組合員は黒表に載せられた。次で一八八四年ニューヨークの醸造労働者は中央労働組合に組合組織の援助を求めたが、解雇を恐れて一切を秘密裡に決定した。彼

等は社會主義者であり、「ナイツ・オブ・レーバー」の書記が初めには彼等を援助したが、是等二團體の間には何等これ以外の束縛はなかつた。然るに醸造労働者が勢力を得るに従ひ漸次「ナイツ・オブ・レーバー」から分離して行つた。殊に此傾向はニューヨークに於て著しく、彼等は「ナイツ・オブ・レーバー」を構成する第四十九地方協議會の政策に反對し、又パウダトリの禁酒政策にも反對したのである。加之、一八八九年のセントルイスに於ける造酒者に對するボイコット事件は、早晚兩團體の分離を惹起すまでに悪化せしめた。

一八八六年ニューヨーク、バルティモア、フィラデルフィヤ、セントルイス、シンシナティ、シカゴの各地に醸造労働者の組合が組織せられ、同じく一八八六年全國醸造労働者組合がバルティモアに組織せられ、翌一八八七年「ナイツ・オブ・レーバー」に反對の決議を採決した。其理由とするところは「ナイツ・オブ・レーバー」が如何なる方法に於ても我等を支持せず……且つ我等の勝利は一も「ナイツ・オブ・レーバー」に由來するところがないと言ふにあつた。勿論此決議に對しては、我等は尙ほ「ナイツ・オブ・レーバー」に背面する地位に在らずと宣言せる若干の地方組合が



あつたが、フィラデルフィアの六個月に互るストライキに於て醸造労働者組合と「ナイツ・オブ・レーバー」との反目は愈々明白となり、ミルウォーキー及びニューヨークに於ても同様の傾向が現れた。

而して一八九二年には醸造労働者組合の全國大會は彼等の組合が「ナイツ・オブ・レーバー」の内部に於て全國同業組合を組織し、争議の場合に「ナイツ・オブ・レーバー」及び「アメリカ労働聯合」より支持を受くべきことを決議した。此決議は「アメリカ労働聯合」より拒絶せられたが「ナイツ・オブ・レーバー」は後に兩聯合體に醸造労働者組合が参加することを認むるに至つた。「ナイツ・オブ・レーバー」内部に於て地方同業組合と地方混成組合との衝突が激しくなるに及び「アメリカ労働聯合」は之を利用して自己の勢力を扶植した。即ち一八九六年「アメリカ労働聯合」は醸造労働者の一組合に解體を命じ、これを肯ぜざる時は聯合より脱退すべき命令を發し、解體の目的を達した。併し乍ら斯の如き命令に反抗して依然として「ナイツ・オブ・レーバー」に止る反對の決議をなしたる組合もあつて、容易に此抗争は解決出来なかつた。(Ware, pp. 221-227)

鐵鋼業労働者の間に於ける組合組織は既に述べたる如く一八五八年ピッツバーグに「バルカンの息」(Sons of Vulcan)と稱する組合が組織せられたのに起原を發する。然るに此組合は間もなく消滅し、次いで一八六一年復活し、翌年更に其組織を擴大した。これに次いで一八七二年八月「鐵鋼熔工同胞組合」(Associated Brotherhood of Iron and Steel Heaters)が組織せられたが大規模のものとならず三、四年にして殆んど消滅して終つた。又各種の鐵鋼業労働に従事せる者を包括する「鐵鋼軋工組合」(Iron and Steel Roll Hands Union)が一八七三年組織せられたが、之も一八七五年の不況に依りて間もなく衰微し、他の組合と合同する希望を懷くに至つた。而して一八七五年軋工、熔工及び汽罐工が相會し、翌年「合同鐵鋼業労働者組合」(Amalgamated Association of Iron and Steel Workers)が結成せらるるに至つた。

此組合は一八七八年より七九年に至る不況時代に賃銀値下反對のストライキを相次いで行ひ、其後一時好況に赴いた。併し乍ら内部の不和のために勢力を失ひ「諸業組合及労働組合聯合」(Federation of Organized Trades and Labor Unions)の援助を受けたが、一八八六年これと全然絶縁するに至つた。斯の如き行動に出でたる

理由は、此組合が「ナイツ・オブ・レーバー」に對して其各種職業の一大合同なることを期待したるに依ると言はれる。而して此結果鋼労働者が「ナイツ・オブ・レーバー」の内部に於て全國同業組合を組織するやうにバウダリーの勸告を受けた。彼は「合同鐵鋼業労働者組合」を引入れるに就て非常に熱心であつたが、此希望は大會に於て拒絶せらるるに至つた。其後一時「ナイツ・オブ・レーバー」と合同組合との紛争は緩和せられたが、一八八八年に至り、合同組合は新に組織せられたる「アメリカ労働聯合」に加盟する決議をなした。(Ware, pp. 221-231)

次に大工は一八五四年全國組合を組織し、一八六七年にも之を組織したが永續せず、一八七〇年代に於てはイギリスの組合の支部が若干存在するに過ぎなかつた。其後一八八一年四月ピター・ゼー・マクグワイアー (Peter J. McGuire) が産業革命の影響を受けたる大工を團結しやうと試みた。彼の計畫は産業の好況に恵まれて「大工及指物師同胞組合」の最初の大會には相當多數の參加者を見出した。而して其後に於ても一上一下があり、一八八六年には組合員總數二萬四千を算するに至つた。マクグワイアーの「ナイツ・オブ・レーバー」に對する態度は、葉巻製造

工の組合よりも協動的であつたが、ゴンバースと同様に非常に活動的であつた。然るに一八八六年労働組合指導者をフィラデルフィヤに會合せしめたる時、彼は「ナイツ・オブ・レーバー」に對して何等反感を有しなかつたが、「ナイツ・オブ・レーバー」は彼等の感情を大に害し、之が爲めに第二回の企をなす心を起させなかつた。然かも彼は前述の會合が何等「ナイツ・オブ・レーバー」と鬭争する意思を以て召集せられたるもので無いことを主張したが、「葉巻製造工組合」と「ナイツ・オブ・レーバー」の地方協議會とが妥協の余地無き關係となり、殊に「ナイツ・オブ・レーバー」の支配が「ホーム・クラブ」の手に歸したる後は、労働組合運動者は別の全國的組織をなす外なく、労働組合が「ナイツ・オブ・レーバー」と分立すべき十分の理由が存在した。

マクグワイアーはゴンバース程激烈に「ナイツ・オブ・レーバー」に反抗しなかつたとするも其原因は彼と同一であつた。即ち「ナイツ・オブ・レーバー」は未だ労働組合の存在せざる方面に局限せらるべきものであると思惟し、既に存在する方面に在りてはこれに關與すべからずと主張した。「ナイツ・オブ・レーバー」の役員は斯の如き主張に従ふべきことを約束したが、バウダリーはこれを敢行する實力

を有せず、總執行委員會の或るものは既存の組合を吸収し若しくは破壊せんと待ち構へてゐたのであつた。而して一八八六年ニューヨーク州トロイに於て「ナイツ・オブ・レーバー」に關係せる大工はマクグロウアイア及び其組合と協同することを拒絶し、明に敵意を示した。其後一八八六年十月には「ナイツ・オブ・レーバー」の總ての大工の地方組合を全國同業組合に合同せんとする運動が生じた。

これより先き一八八六年五月には八時間労働を要求せるストライキがシカゴに於て行れ、同胞組合「ナイツ・オブ・レーバー」の協議會、合同組合の地方支部が参加し、從來何れの組合に於ても見ざる程の成功を遂げた。彼等は親方大工組合から八時間労働を保證する協定を得、翌年にも之を繼續したのである。然る工に煉瓦のストライキの後、九時間労働に復したる爲め大工組合はストライキをなしたが、資金が缺乏したので失敗に終つた。此爭議に於ては「ナイツ・オブ・レーバー」と同胞組合とが提携したのであるが、これは一八八八年に至つて破壊せられ、「ナイツ・オブ・レーバー」は總協議會を組織し、同胞組合は合同大工組合を組織した。然るに其後一時再び合同してストライキをなしたこともあるが一八九四年永久に分離することになつた。ニューヨークに於ても二種の組合が同胞組合より分裂し、一八九〇年「ナイツ・オブ・レーバー」に参加した。(Ware, pp. 228-236; McNeill, Labor Movement: the Problem of To-day, pp. 355-360.)

『國際活版工組合』は一八七〇年代の不況に他の組合と等しく苦しみ組合員の多數を失ひ全國組合は決して大なる支配力を有することがなかつた。而して一八八四年に至るまで、此活版工組合は單なる地方組合の集合體にして、ストライキ基金等に關して毎年代表者が討論を繰返すものに過ぎなかつた。一八八〇年代の初期に於て「ナイツ・オブ・レーバー」は印刷工の組合凡そ四十を組織し、ニューヨークに地方協議會が組織せられた。併し乍ら印刷工組合は微力であつてボイコットを其主要なる武器となすに過ぎなかつた。而して一八八四年此組合に對して「ナイツ・オブ・レーバー」に加入を強制するために壓迫が加へられた。此頃より「ナイツ・オブ・レーバー」の協議會と印刷工の地方組合との間には幾分かの紛糾があつたが、ニューヨークの新聞「トリビューン」のボイコットに於ては「ナイツ・オブ・レーバー」が之を支持した。然るに『國際活版工組合』と「ナイツ・オブ・レーバー」とが強大

となるに従ひ此間に種々の問題が発生し、印刷工の大會は特別委員を任命してパウダーリーと折衝せしめることとした。而して一八八六年には兩者の關係が大いに緊密となり、同年の大會にパウダーリーは特に人を派遣して活版工組合を「ナイツ・オブ・レーバー」に参加すべきことを勧めた。併し後者は遂に之を拒絶した。加之翌一八八七年には「アメリカ労働聯合」と「ナイツ・オブ・レーバー」の間に事を決定せんと試みた活版工組合は「アメリカ労働聯合」の大會に代表者を派遣したが、彼等は之に加盟するのではなく、二種の報告書を提出したのである。これと同一の態度は「ナイツ・オブ・レーバー」に對しても執られたのであつて、二種の報告書が委員會に提出せられた。而して活版工組合は「アメリカ労働聯合」の大會に代表者を送つたが、人頭賦課金を支拂はず「アメリカ労働聯合」が一八八九年八時間労働運動の支持のために醵金すべき提案をなしたる時、彼等の代表者は何等の活動をもなさず、醵金をも支拂はなかつた。蓋しこれを支拂ふ權能を活版工組合の役員が與へられて居らず、次回の大會に依りてこれを決定する外なかつたからである。而して是等の問題は、一八九一年の大會に於て解決せられ、此處に「國際活版工

組合』は「アメリカ労働聯合」に加盟することとなつた。(Ware, pp. 236-242)

#### 四、『諸業組合及労働組合聯合』

『ナイツ・オブ・レーバー』が徐々と各種の職業に従事する労働者を包括する單一の全國組合を設立せる時、他方に於ては「ナイツ・オブ・レーバー」の範圍外にある所謂全國同業労働組合の小團體が存在した。それは一八七〇年代の不況によりて悲惨なる状態に陥り、極めて小數のみ残存したが、一八七九年の好況復活と共に漸次改進し始めた。而して其最も古きものは「國際活版工組合」であり、最も新しきものは「合同鐵鋼業労働者組合」であり、又最も活動の旺盛なるは「國際葉卷煙草製造工組合」であつた。然るに一八七八年インディアナ州に「産業騎士團」(Knights of Industry)と稱する秘密結社が組織せられ、今一つの秘密結社「合同労働組合」(Amalgamated Labor Union)と共同して一八八一年八月二日テレ・ポートに大會を召集した。此大會に參集したる顔振を見るに、印刷工組合の代表者プラントを除けば、全國同業労働組合と多くの關係を有せざる者であり、同業労働組合に反對して他の秘密結社を組織する提案が爲されたが、其採擇は延期せられ、次回の大會を十一月



ピッツバーグに於て召集することを定めたのみであつた。

而して此大會には百七名の代表者が出席し、ゴンバースを委員長とする組織委員會は『合衆國及カナダ諸業組合及労働組合聯合』(Federation of Organized Trades' Unions of the U. S. and Canada)の名稱を以て純然たる職業團體たらしむることを可決した。之は勿論抗争の開始であつた。當時アメリカの労働運動は純粹且つ單一の労働組合運動に對する準備を有せず、全國労働組合は指導者たるには餘りに微力であり、諸業協議會は混成團體であり、大會には『ナイツ・オブ・レーバー』が最も多數の代表者を派遣したのであつた。大會の席上に於ては此聯合團體が不熟練労働者を除外せるは危険であることを指摘せる黑人代表者があり、又『ナイツ・オブ・レーバー』の代表者等は、全労働階級を包括せしめんとした。而して此問題は多くの議論を生みたる後、職業上の聯合體たる見解を排斥し、諸業組合及び労働組合聯合の名稱を採擇し、其綱領には他の組合の如く組合の法人格取得、義務教育、少年労働徒弟制度、八時間労働、囚人労働、騷擾法の廢止等が掲げられた。

一八八二年クリブランドに於ける第二回大會に於ては代表者の出席が前年

に比して急激に減少し、僅に十九名となつた。『ナイツ・オブ・レーバー』は個人加入者を除く全部が脱退したからであつた。而して大會に於て外國の低廉なる労働に對する防衛の項目が削除せられたので、『鐵鋼業労働者組合』も亦脱退した。

ニューヨークに於ける第三回大會に於てはサムエル・ゴンバースが議長となつた。而して労働組合の聯合體たることに失敗したので、労働階級の政治上の目的を有する聯合體たらしめんと欲し、『ナイツ・オブ・レーバー』及び同類の團體と協議する爲めに委員を任命した。然るにゴンバースは『ナイツ・オブ・レーバー』を眼中に置かず、之に代るべき動議を提出し、之に對して『ナイツ・オブ・レーバー』の總執行委員會の議長フランク・ケイ・フォスター(Frank K. Foster)より、労働團體と協議すべき委員任命の修正意見が現れ、可決せられたのであるが、實際には何等爲すところが無かつた。

一八八四年のシカゴに於ける大會には僅かに二十五名の代表者があつたのみで、ゴンバースも出席しなかつた。『葉巻煙草製造工組合』は中央ストライキ基金を作成することを欲し、大工組合は一八八六年五月一日を期して一切の職業に於

て八時間労働の總運動を爲さんことを欲した。前年來の不況期に於て電信工、ホッキング、溪谷の坑夫、フォールリバー紡績工の三大ストライキが失敗したる影響を受けて、成るべくストライキを回避したが、然かも漸を追ひて改善するの必要を認め、ストライキ基金を作成すること、一八八六年五月一日以後八時間労働を法定労働時間とすべきことをも決議した。此時代に於ては「ナイッ・オブ・レーバー」と「諸業労働聯合」との間には眞に不和と稱すべきものは存しなかつた。それは前者が後者を無視してゐたからである。現に「聯合」に對する多くの代表者は「ナイッ・オブ・レーバー」の代表者であり役員であつた有様である。

一八八五年の大會には「聯合」の衰頹を反映して前年よりも更らに少數の代表者が出席したのみであつた。而して八時間労働とストライキ基金に對する回答は少數であつたから、來年まで採決を延期した。一八八五年に至るまで聯合は平和なる小家族の感があつたが、外界に於ける衝突によつて影響を受けて紛糾を生じた。其一は「國際葉卷煙草製造工組合」が其組合票のみを承認せんことを要求したるに對して、對抗組合たる進歩的葉卷煙草工組合に好意を有する者より反對

意見が行はれたことであり、其二は「聯合」の創立者なる活版工組合が優柔不斷の態度に對して不満であつたことである。而して彼等は次年度より承認せられたる労働組合の代表者以外の者が大會に参加することに熱心に反對した。

一八八六年の大會は十月セントルイスに於て開催せられる筈であつたが、遂に實現しなかつた。而して「ナイッ・オブ・レーバー」と諸組合との間の紛糾は其極點に達した。同年十二月「アメリカ労働聯合」がオハイオ州コロンブスに於て組織せられ、其後間もなく從來の聯合が改めて十二月コロンブスに大會を開く旨の通知がゴンバースに依りて發せられた。此大會には僅か十二の團體が代表せられたるに過ぎず、八時間労働運動の失敗の責任を問はれ、大會第二日たる十二月九日遂に解散せざるを得なくなつた。而して會衆はゴンバースを先頭として新しき労働組合會議に進出し、是等の會衆は次の協定に従つて新團體によりて代表者として承認せられた。即ち第一に労働組合會議は労働組合の利益をよく保護する會則を有する「アメリカ労働聯合」と稱する團體を組織すること。第二に從來の聯合が有する總べての金錢、書類其他の所有物は新團體の役員に引渡し、且つ從

來の團體が收受すべき一切の人頭税は新團體が徴收することを協定せること。第三に新團體は議事に關する書類を公刊し、從來の聯合が「アメリカ労働聯合」に合併すべき勸告を採擇せることである。(Commons, pp. 401-314; Ware, pp. 243-257; Binba, History of American Working Class pp. 169-172)

##### 五、『國際葉卷煙草製造工組合』

『葉卷煙草製造工組合』が「アメリカ労働聯合」の起原と關係を有するは人的關係であつた。一八八六年には全國の殆んど凡ゆる組合が「ナイツ・オブ・レーバー」に反對したが、就中『葉卷煙草製造工組合』が斷然挑戦したのであつた。それは彼等が他の組合よりも賃銀意識を多く有し、若しくは獨立を享受したる爲ではなかつた。それは第一にサムエル・ゴンバースが葉卷煙草製造工であつたことに歸せられる。勿論彼が有能なる労働組合の指導者たることが前提となつたのではあるが、彼とアドルフ・ストレッサーが共に葉卷煙草製造工であり、組合間に紛争が起り、又組合と「ナイツ・オブ・レーバー」との紛争があつた爲めに「アメリカ労働聯合」が成立したのである。

『全國葉卷煙草製造工組合』(National Cigar Makers Union)は一八六四年組織せられ、三年を経て『國際葉卷煙草製造工組合』(Cigar Makers' International Union)と改稱した。而して此國際組合は一八六九年殆んど六千の職工を包括し、最も盛大を極めたが、其後漸次衰頹した。此前後に於て葉卷煙草製造工程が尠なからざる變革を受け、職工の地位が漸次低下し、頻繁にストライキが行はれたが、國際組合は之を統制する實力を有せず、一八七七年には組合員が最少數に減じた。

而して其後二年を経て組合組織が改造せられ、所謂新組合運動を形成するに至つた。一八八〇年以後産業状態の改善せられたると、ストレッサーの統轄宜しきを得て、組合は漸次復活し、一八八一年の大會後に『進歩的葉卷煙草製造工組合』が『國際組合』より分裂し、ゴンバースを推して「ナイツ・オブ・レーバー」に反感を懷かしむる原因となつた。『進歩組合』と『國際組合』との相違は長屋に於ける葉卷煙草製造の禁止に關する政策に關係し、前者は社會主義を中心とし、後者は政治家を中心勢力とした。而して一八八一年四月『國際組合』の役員選舉に當り、『進歩組合』の者が會長に選出せられたが、ゴンバース及び其仲間ば引繼を拒絶し、結局『進歩組合』

の者は『國際組合』を脱退し、其影響は各種作業者に急速に普及した。

『國際組合』と『ナイツ・オブ・レーバー』との間の紛争は、何等主義の問題に依るのではなかつた。『ナイツ・オブ・レーバー』は一般の労働組合運動に反対せず、又『國際組合』も特に反対を試みなかつた。『ナイツ・オブ・レーバー』内部に於ても組織形態に關して反対意見があり、組合内部に於ける個人的闘争が根本原因をなした。ニューヨークに於てもゴンバースの關係せる『第四十九地方協議會』の内部には『國際組合』に對すると同様激烈にパウダーリーと抗争せる一部があつた。尙ほ此地方協議會は『進歩組合』に『國際組合』が與へたる待遇に反対する意見を『ナイツ・オブ・レーバー』に提出したることがあり、ニューヨークに設立せられたる挑戰的組合と抗争したることがあつた。

一八八〇年『國際組合』は葉巻煙草に青色の組合票を採用した。『ナイツ・オブ・レーバー』は一般には白色の組合票を使用した。葉巻煙草には青色の組合票を特にピッツバーグ地方に於て使用して居た。而して一八八四年には『ナイツ・オブ・レーバー』が證票を發行することに反対の五箇の決議が提出せられた。併し乍ら此

問題に就ては『ナイツ・オブ・レーバー』は『國際組合』に對して何等惡感情を示すものではなかつた。次に一八八四年二月ニューヨークの一煙草製造會社が賃銀値下の企圖をなしたので、『進歩組合』がストライキをなした。然るに之に對して『國際組合』は何等援助を與ふることを拒絶した。又某工場の製品にボイコットが行はれたる時『ナイツ・オブ・レーバー』の組合員が解雇せられ、其地位をストライキ破壊者が占めたる事が報告せられ、之に基いて總執行委員會は之に承認を與へたのであつたが、後にストライキ破壊者が『國際組合』の組合員なることを見出して、其行動を後悔した。

ニューヨークに於ける『進歩組合』及び『國際組合』の間の一部の和解は、一八八六年一月企てられた。然るに『進歩組合』の役員は之に満足しなかつたので、二月に至り『國際組合』は自己の證票を附せざる葉巻煙草のボイコットを斷行した。一八八六年にはニューヨークに二箇の『ナイツ・オブ・レーバー』の地方組合があり、五箇の國際組合の支部があつた。賃銀値下がなされたる時總べて是等の團體はストライキをなさんと準備したが、其爲めに共同動作の會議を開かんとしたが、目的を



達しなかつた。これに對して葉巻煙草製造業者は總べての工場の労働者をロックスアウトし、『中央労働組合』と『進歩組合』とは當業者と協定をなして復職したが『國際組合』のみは之に參與しなかつた。『進歩組合』と『國際組合』との競争は極めて激烈であつた。三月ストレッサー及び他の一名がフィラデルフィヤを訪問し總執行委員會及びバウダリーと會議を開いたが、バウダリーは『國際組合』を『ナイツ・オブ・レーバー』の地方協議會として參加せしめんとしたと推定した。次いで總執行委員會がニューヨークに於て調査をなせる時『國際組合』よりその要求を述べたがそれには『國際組合』を『ナイツ・オブ・レーバー』に參加せしむる施設をなす爲に『國際組合』と『ナイツ・オブ・レーバー』が共同の會議を開くことを提案した。而して其條件は次の如くであつた。

第一、全國同業組合は『國際組合』の現行規則に支配せらるべきこと。

第二、『國際組合』の青色の組合票は他のものと置き換へ得ること。

第三、一切の葉巻煙草製造工は新しき組合に加入すること。

第四、新しき組合は總協議會の規約を守るべきこと。

第五、新しき組合の役員は『國際組合』の役員たるべきこと。

斯の如き提案は『ナイツ・オブ・レーバー』より起りたるものと想像せられるのであるが、之は殆んど一般には信ぜられなかつた。併し乍らストレッサーも同様の提案をなしたと言ふ證言に依りて特に信用を増加した。而して八月一日ニューヨークの『中央労働組合』は『進歩組合』と『國際組合』との合同に賛成した。八月十日『進歩組合』は全國會議に於て解體し『國際組合』に還元し、一箇月を経て此合同は完成せられ、ストレッサーとゴンバースは『國際組合』を『アメリカ労働聯合』に引き入れた。中央労働組合は八月十五日その指導者に關して分裂し、その後一八八七年改造せられた。(Ware, pp. 258-279; McNeill, appendix; Perlman, pp. 116-118; Commons, pp. 399-402)

#### 六、『アメリカ労働聯合』の起原

一八八五年より八六年に至る間に於て『ナイツ・オブ・レーバー』が一時的隆昌を得たる一方に於て、全國同業労働組合は徐々に併し乍ら確實に其加入者を増加してゐた。それと同時に總ての全國組合は『ナイツ・オブ・レーバー』の膨脹に影響せ

られ、之に加盟して大同團結の實を擧ぐべきことが論題に上つた。而して多數の指導者はストレッサー、ゴンバース、マクグワイアーと協力せんとした。其處で一八八六年四月二十六日、マクグワイアー(大工組合)、ストレッサー(葉巻煙草製造工組合)、ダイヤヤー(花崗岩切出工組合)、フィッツパトリック(鑄鐵工組合)、フォスター(舊「聯合」の書記)が同年五月十八日、フィラデルフィヤに於て労働組合大會を召集する通告を發表した。其目的は諸業労働組合は破壊せらるべしと公然誇號する分子の有害なる作用より各自の組合を防衛するにあつた。斯の如き分子は「ナイツ・オブ・レーバー」の中に入り、有害なる作用とはストライキ、破壊者及び不正備主が此の分子によつて後援せられることであつた。而して此大會は「ナイツ・オブ・レーバー」の幹部役員をして諸業労働組合運動に對する反感を止めしめんとする計畫を樹てさせることにあつたと想像せられる。然るに此大會の通告がなされたと同じ日に、パウダーリーは五月二十五日、クリブランドに於て「ナイツ・オブ・レーバー」の總協議會の特別大會を開催し、組合内部の不健全なる發達より生ずる三つの事件、即ちボイコットの統制、ストライキの統制に關する中央集權及び諸組合との紛

糾を解決せんとした。

フィラデルフィヤの大會は指定通り五月十八日開催せられ、二十二名の代表者が出席し、何れも「ナイツ・オブ・レーバー」に對する反感を示した。即ち「ナイツ・オブ・レーバー」が同業労働組合員を結合し、然かも其膨脹は玉石混淆である等の非難が加へられた。斯の如き非難は必ずしも當らざるものではなかつた。労働運動は單一の膨大なる組合が之を獨占し、當に危険に瀕して居たのである。従つて大會は次の陳情を表明した。即ち彼等は全國及び國際諸業労働組合が歴史的基礎を有し、且つ過去の功績を有する點より見て、各組合は明白なる独自の自治權を有すべきものなることを主張し、何れの組合も「ナイツ・オブ・レーバー」に支配せられ、又は之に加入することが有利なりと信ぜず、然かも尙一切の労働關係者の連帶を主張する。それにも拘らず「ナイツ・オブ・レーバー」の或る分子は労働組合を破壊することを目的とするが故に之を停止せしめ、協調關係を維持する計畫が必要であると主張した。而して彼等は五月二十五日特別總協議會に提出すべき盟約を起草した。それは次の諸條より成つて居た。

第一、全國又は國際労働組合を有する何れの労働部門に於ても「ナイツ・オブ・レーバ」は前記組合の地方團體の同意を得ずして加入者を得、若しくは協議會を組織せざること。

第二、何人と雖も彼の屬する職業の同業労働組合が決定せる正規の賃銀率以下を以て労働する者は「ナイツ・オブ・レーバ」に加入せしめざること。又労働組合に反對の行動を執りたる者は組合の承認を得るまで「ナイツ・オブ・レーバ」に加入せしめざること。

第三、全國又は國際労働組合を有する職業に於ける「ナイツ・オブ・レーバ」の組合許可證は之を撤回し、其組合員は全國又は國際労働組合の支配の下に在る地方組合を組織するか、混成協議會に加入すべきこと。

第四、労働組合の解體又は發達若しくは特權を制限せんとせる「ナイツ・オブ・レーバ」の組織者は其任務を廢せらるべきこと。

第五、何れかの労働組合のストライキが行はれてゐる時は「ナイツ・オブ・レーバ」の協議會又は地方協議會は、其労働組合の満足すべき解決の行はれる迄干

渉せざること。

第六、「ナイツ・オブ・レーバ」は現在發行したる、又は今後全國又は國際労働組合が發行することあるべき組合票と競争して組合票を設けざること。

斯の如き嚴格なる要求は「ナイツ・オブ・レーバ」と労働組合團の相對的勢力を考慮する時幾分理解し難きものである。蓋し當時此大會に代表せられたる労働組合は十四萬の組合員を有するに對し「ナイツ・オブ・レーバ」は七十萬を有したのであつた。然かも全國組合は「ナイツ・オブ・レーバ」に對して斷然たる條件を設くるに躊躇しなかつた。而して此盟約は「ナイツ・オブ・レーバ」と協同する基礎を示すものに非ずして、折衝するため作成せられたるもので、マクグワイア其他多數の者は斯の如く解釋してゐた。然るにストレッサーとゴンバースとは之を戰宣布告と看做したのである。

「ナイツ・オブ・レーバ」は此大會前後最大の勢力を有するに至りたる外觀を示したが、實は此頃既に衰頹の徵候を示し、ゴンバース其他は此間の情勢を洞察して居た。而して葉巻煙草製造工は「ナイツ・オブ・レーバ」と妥協すること能はずと

思考した。然かも之と衝突するに先立ち、ゴンバースは一八八一年純粹にして且單一なる労働組合聯合を組織する決意をなし、其計畫に破れたことがある。而して一八八六年には四圍の事情が此計畫に好都合となつた。

一八八六年五月二十五日クリーブランドに於ける臨時總協議會は「ナイッ・オブ・レーバー」の當面の困難を解決するために開催せられた。其内最も大なる問題は前記の盟約に就て發生した。此問題を労働組合側の委員と交渉する爲めに、特別委員會を設立する動議をマサチューセッツ州のマクネイルが提出したが、總執行委員會が交渉の顛末を報告する迄之を其儘とした。總執行委員會は總協議會に何等勸告を付せずして盟約を提出した。それは開會期日切迫して受領せられたからであると説明せられた。而して熱心に討議せられたる後、之を常設委員會に廻附した。

常設委員會の議長はフランク・ケー・フォスター (Frank K. Foster) であつた。彼は總執行委員會の前議長であり、舊「聯合」の加入者であつた。シリング及びマクネイルも委員であり、ゴンバースが附添人となりたる同業労働組合の委員等は「ナイッ・オブ・レーバー」の委員より厚遇を受け協商をなした。パウダーリー「合同鐵鋼業労働者組合」に送附して「ナイッ・オブ・レーバー」に加入せしむる勸誘の長文の通牒を讀み上げた。其内には貴組合の管理に何等の干渉を試すと明言して居る。

『合同鐵鋼業労働者組合』は最も鞏固なる組合で一八八二年舊「聯合」より脱退したる組合であつた。而して急速なる工業の機械化によりて危険なる状態に在りと其幹部が警戒して居た。之に對してパウダーリーは「合同組合」の各種労働者を支持する爲めに「ナイッ・オブ・レーバー」を鋼業に於ける不熟練労働者の團體たらしめんとした。而して「ナイッ・オブ・レーバー」は單なる労働組合に非ずと會則にあるの故を以て、我等の團體に對して偏見を有してはならぬ、それは一個の同業労働組合ではない、總ての職業の組合であると彼は言つて居る。

パウダーリーは過去の經驗と忠言者とに依りて斯の如き政策を取るに至つたのであるが、之に對してマクネイルは反對の意思を表明した。常設委員會は既にストレッサー、ゴンバース及びマクグワイアー等と會見し、彼等の不平竝に提案を受取りたることを報告し、尙ほ此問題に關して十分なる協商をなす爲めに、双方が

委員を選擧すべきことを勸告し、而して労働組合に通告を發する前に、總協議會は補助執行委員を選擧し、増加したる事務を處理することとした。然るに此選舉に於て同業労働組合派は失敗を爲し、彼此の原因から結局「ナイツ・オブ・レーバー」の衰頹を來した。而して其後に實權を得たるは「ホーム・ム・クラブ」で自派の總執行委員と協力してバウダリーを動かし、同業労働組合派は選舉の結果、彼等が打撃を受け、「ナイツ・オブ・レーバー」と労働組合との間に鬭争が行はれることを示すものであると感じた。而して此豫感は大會閉會前に事實となつて現はれた。

クリーブランドの特別大會が一八八六年六月三日解散する時、労働組合の委員と會見し何等かの協定を爲さんが爲めに、五名の委員を任命することが幹部の任務となつた。而してバウダリーは其任命の困難にして總執行委員が其目的の委員會として活動するを可とする主張し、總協議會の權威を犯す行動を取つた。何れにしても労働組合側の委員は、九月末頃一部の總執行委員と會見し、盟約に適當の注意を拂ひ、尙ほ將來の問題に就て對策を講ずべきことを希望した。然るに之より先、鑛物工組合は其年次大會に於て今や北アメリカの全國及び國際大組合

の時代が到達したと宣言した。之は「アメリカ労働聯合」の成立を希望する叫聲で、一八八七年一月一日以前に總ての北アメリカに於ける労働組合の代表者の會議を召集すべき委員會の件が提案せられた。

一八八六年十月四日バーモント州リッチモンドに於て「ナイツ・オブ・レーバー」の最大の集會が催された。會する者八百名、其代表する組合員労働者實に七十萬を越えた。斯の如き盛況はアメリカに於ては未曾有のことであつた。然るに既に述べたるが如く「ナイツ・オブ・レーバー」の實際勢力は峠を越し、八時間労働、ヘイマケットの騷擾、西南鐵道のストライキの失敗等は「ナイツ・オブ・レーバー」が漸次粉碎せられる事を示した。リッチモンドの大會は十六日間に亘り、其の間種々の出來事があつたが「葉巻煙草製造工組合」は除名せられ、労働組合の勢力は無視せられた。之は明に全國組合に對する挑戦であつた。バウダリーは同業労働組合側の要求を大會に提出する約束をなしたるにも拘らず、之を實行しなかつた。而して三週間の後即ち一八八六年十一月十日、委員會は同年十二月八日オハイオ州コロンブスに於て諸業労働組合の新しき聯合を組織する爲めに大會召集狀



を發した。此召集狀には次の如く述べてある。

「今やアメリカに於ける總ての諸業労働組合の間を極めて密接に結合すべき羈絆が延ばされる時が來た。吾等は毎年の諸業會議を必要とする。而して其目的は次の如くである。

- 一、アメリカに於ける諸業労働組合の構成及び此運動の奨励。
- 二、アメリカ各都市に於ける諸業協議會、諸業會議又は中央労働組合の組織及び奨励。
- 三、労働階級の利益の爲めに州立法を動かす州同業協議會又は州労働議會の設立。
- 四、各職業の自治を明白に承認し基礎とせる全國及び國際諸業労働組合の建設及び斯の如き團體の振興發展。
- 五、各自援助し且つ労働階級の利益となる國家の法制を確保するため、又組織労働者の爲めにする平穩且合法の方法を以て輿論を動かす爲めに總ての全國及び國際諸業労働組合のアメリカ聯合又は同盟の結成。

六、アメリカの労働新聞を補助奨励し労働運動に關する小冊子及び文献の頒布。

此計畫せられたる『聯合』と『ナイツ・オブ・レーバ』との間には二個の重要な差異がある。其一は前者が地方協議會に支配せられずして全國組合に支配せられ、餘り中央集權的に非ることこれであつた。而して斯の如き計畫に對する機會は熟し、運命の人サムエル・ゴンバースは五年前に試みて失敗したる計畫を再び繰返して遂に能く成功したのであつた。

此労働組合側の運動は『ナイツ・オブ・レーバ』をして委員會を任命せしめ、『アメリカ労働聯合』の第一回大會中コロンブスに於て會見した。而して盟約が再び提出せられた。然るに兩者は意見が一致せず、『アメリカ労働聯合』の第一回大會は『國際葉卷煙草製造工』の青色組合票こそ唯一の同業に於ける組合票であると宣言し、『ナイツ・オブ・レーバ』の從來の行動を非難し、労働者の團結、全國及び國際労働組合の結成、『アメリカ労働聯合』の組織の急務なることを主張した。

一八八九年『ナイツ・オブ・レーバ』と『アメリカ労働聯合』とは再び協力せんと

試みた。前者は組合員の激減に苦しみ、後者は八時間労働運動の援助を必要としたのである。而して前者は労働者券の相互の承認、組合票の相互の承認、脱退組合員の相互の除外等を提案したが、後者は「ナイツ・オブ・レーパー」に非難を加へたので、之に對抗して前者も結束を固くすべきことを主張した。之によつて再び事態は紛糾し、一八九四年「アメリカ労働聯合」は「ナイツ・オブ・レーパー」が何れの職業に於ても二重の組織を廢することを宣告するまで、彼等と會見又は協商をなさざることと決心した。斯の如くして一八八七年より九四年に至るまで、兩團體は互に闘争のために多くの精力を費したが、徐々に新團體が勢力を増加し、古きものが衰頹して行つた。

「ナイツ・オブ・レーパー」は最も隆盛なりし時代に其本部として五萬ドルの價格を以て豪華なる褐色石造の邸宅を購入し、之を天下に誇示したが、權力、富、威嚴、地位は役員と平組合員との離隔を甚しからしめ、パウダーリーはスクラントンに退居して著述に専心することになつたが、「ナイツ・オブ・レーパー」は多數の加入者を喪ひたるのみならず有名なる指導者をも失つた。斯くしてパウダーリーは回顧焦

慮の日を送つたが、時代は遂に彼を永久に置き去りにして終つた。(完) (Bimba, pp.

189-198; Commons, pp. 402-413; Ware, pp. 280-298, 371-376; Hollander and Barnett, Studies in American Trade Unionism, p. 36; Perlman, p. 118-124)

(昭和六年二月十三日稿)